

研究業績リスト

(2004年10月1日～2005年9月30日)

人間基礎科学講座

教 授：貞方 一也，ハワード・N・ターノフ
小野 滋男，館山 碧

助教授：森田 熱，柳田 寛，小澤 次郎
薄井 明

講 師：花渕 馨也，鎌田 穎子，櫻井 潤

(1) 著 書

- 1) 小澤次郎：「文士徵用」「皮膚と心」，志村有弘・渡部芳紀(編)『太宰治大事典』，勉誠出版，359-60, 587-8, 2005, 1.
- 2) 花渕馨也：『精靈の子供：コモロ諸島における憑依の民族誌』，春風社，2005, 2.
- 3) 花渕馨也：「Lesson 7 宗教と呪術－世界は脱魔術化されるのか？－」，奥野克巳・花渕馨也共編，『文化人類学のレッスン：フィールドからの出発』，学陽書房，153-179, 2005, 4.
- 4) 渋谷博史・櫻井 潤：「日本の経済社会と地域」，渋谷博史・安部雅仁・櫻井 潤編著，『地域と福祉と財政』，学文社，14-32, 2005, 4.
- 5) 櫻井 潤：「医療保険制度」，渋谷博史・安部雅仁・櫻井 潤編著，『地域と福祉と財政』，学文社，73-106, 2005, 4.
- 6) 櫻井 潤：「介護保険制度」，渋谷博史・安部雅仁・櫻井 潤編著，『地域と福祉と財政』，学文社，107-135, 2005, 4.
- 7) 井上洋一・櫻井 潤：「地域福祉と農協：長野県上田市を事例として」，渋谷博史・安部雅仁・櫻井潤編著，『地域と福祉と財政』，学文社，136-151, 2005, 4.

(2) 論 文

- 1) 森田 熱，須田 力：高齢者の人力除雪で発揮される体力要素，雪氷，67, 233-243, 2005, 5.
- 2) 柳田 寛：無垢なる詩心—倉田紘文論（二），北海道医療大学人間基礎科学論集，30, B 9 - 16, 2004, 12.
- 3) 小澤次郎：古今和歌集139番歌の解釈，北海道医療大学看護福祉学部紀要，11, 13-17, 2004, 12.
- 4) 小澤次郎：森 鴎外「舞姫」冒頭部の文の解析，北海道医療大学人間基礎科学論集，30, B 1 -

7, 2004, 12.

(3) その他の論文

- 1) 貞方一也：Webサーバー上の32ビットFORTH，北海道医療大学看護福祉学部紀要，11, 59 - 65, 2004, 12.
- 2) Tarnoff, Howard N. : Essay Monogram Series, Comparative Issues of North America and Japan, Hoppoken Quarterly Journal, Autumn Issue, 129, 52-53, 2004, 10.
- 3) Tarnoff, Howard N. : Essay Monogram Series, Comparative Issues of North America and Japan, Hoppoken Quarterly Journal, Winter Issue, 130, 64-65, 2005, 1.
- 4) Tarnoff, Howard N. : Essay Monogram Series, Comparative Issues of North America and Japan, Hoppoken Quarterly Journal, Spring Issue, 131, 44-45, 2005, 4.
- 5) 館山 碧：植物の学名、英名、和名(12)(Canarium-Carex)，北海道医療大学人間基礎科学論集，30, A 15-A34, 2004, 12.
- 6) 志度晃一，森田 熱，竹内夕紀子，佐藤陽香，山田耕平：本学学生における体型意識の性差に関する研究，北海道医療大学看護福祉学部紀要，11, 79-85, 2004, 12.
- 7) Suda T, Asao H, Morita I. : Differences in the Relationships between Physical Resources and Vital Functions of College Students and Elderly People Living in a Snowy Region, Proceedings in 6 th International Congress on Aging and Physical Activity, Journal of Aging and Physical Activity, 2005, 7.
- 8) 柳田 寛：季別花の秀句集成（二），北海道医療大学人間基礎科学論集，30, B17-21, 2004, 12.
- 9) 薄井 明：〈日本近代礼法〉の形成過程（2），北海道医療大学看護福祉学部紀要，11, 51-58, 2004.
- 10) 花渕馨也：「植民地医師の民族誌的視点—モヘリ島の『医療地理学』報告書について」，『グローバル化する近代医療と民族医学の再検討』文部科学省科学研究費補助金・研究成果報告書，39-43, 2005, 6.

(4) 学会発表

- 1) 須田 力，森田 熱：豪雪住民の生活機能保持のための簡易トレーニング，2004年度北海道体育学会，2004, 11.

- 2) 森田 熱, 山口明彦, 須田 力: 積雪寒冷地の高齢者に対するマシントレーニングの効果, 第60回日本体力医学会大会, 2005, 9.
- 3) 山口明彦, 森田 熱: 機能的過負荷による筋肥大とIGF-I mRNAおよびmRNAの発現, 第60回日本体力医学会大会, 2005, 9.
- (5) 講 演
- 1) 森田 熱: 石狩市体力測定会講演「体力測定の意義」, 石狩市, 2004, 10.
 - 2) 森田 熱: 石狩市筋力アップ教室基調講演, 石狩市, 2004, 11.
 - 3) 森田 熱: 冬期の運動不足解消に向けた筋力トレーニングの理論, 岩見沢市, 2004, 11.
 - 4) 森田 熱: 平成16年度公認B級スポーツ指導員養成講習会講演「体力トレーニングの理論」, 札幌市, 2004, 11.
 - 5) 森田 熱: JADAセミナー「生活習慣病予防健康管理のポイント」, 2005, 6.
 - 6) 森田 熱: 石狩市緑苑元気かい講演「北国で逞しく生活するために」, 2005, 7
 - 7) 森田 熱: 函館市地域スポーツ指導者育成講座講演「ウエイトトレーニングの指導法」, 2005, 8.
 - 8) 森田 熱: 平成17年度石狩管内体育指導委員研修会講演「北国の生活に適った体力づくり」, 2005, 9.
 - 9) 小澤次郎: オープンカレッジ講演「漢字であそぼう」, 北海道医療大学当別キャンパス, 2004, 11.
 - 10) 小澤次郎: オープンカレッジ講演「絵本であそぼう」, 北海道医療大学当別キャンパス, 2005, 4.
 - 11) 薄井 明: 北海道社会福祉士会受験対策講座, 北海道社会福祉士会, 2004, 11, 27.
 - 12) 櫻井 潤: 東京大学大学院経済学研究科「日本経済」, 「日本の医療保険制度と介護保険制度における地域差と地域間所得再配分」, 2005, 1.
- (6) 社会活動
- 1) 森田 熱: 北海道医療大学生涯学習, 高齢者のパワーアップ講座「脚腰弱っていませんか1」, 北海道医療大学サテライトキャンパス, 2004, 10.
 - 2) 森田 熱: 北海道医療大学生涯学習, 高齢者のパワーアップ講座「脚腰弱っていませんか2」北海道医療大学サテライトキャンパス, 2004, 10.
 - 3) 森田 熱: 北海道医療大学生涯学習, 高齢者のパワーアップ講座「脚腰弱っていませんか3」北海道医療大学サテライトキャンパス, 2004, 10.
 - 4) 森田 熱: 日本エアロビックフィットネス協会「ADI資格認定試験教習ワークショップ」, 札幌市, 2004, 10.
 - 5) 森田 熱: 北海道医療大学生涯学習, 高齢者のパワーアップ講座「雪かきシーズンの前に」, 北海道医療大学サテライトキャンパス, 2004, 11.
 - 6) 森田 熱: 冬期の運動不足解消に向けた筋力トレーニングの実際, 岩見沢市, 2004, 11.
 - 7) 森田 熱: 平成16年度公認B級スポーツ指導員養成講習会講演「体力トレーニングの実際」, 札幌市, 2004, 11.
 - 8) 森田 熱: 石狩市筋力アップ教室(1)-(12), 石狩市, 2004, 11-2005, 2.
 - 9) 森田 熱: 「筋力アップで怪我予防」, 北海道新聞生活欄, 2004, 12.
 - 10) 森田 熱: 「除雪運動学除雪」, 日本エアロビックフィットネス協会, ヘルスネットワーク, 2005, 1.
 - 11) 森田 熱: 「女性こそ筋力トレーニングを」北海道新聞生活欄, 2005, 2.
 - 12) 森田 熱: 栗沢町スマイルクラブ運動教室, 2005, 3.
 - 13) 森田 熱: 士別市高齢者体力づくり教室, 2005, 3
 - 14) 森田 熱: 函館市地域スポーツ指導者育成講座研修会「ウエイトトレーニングの指導法」, 2005, 8.

臨床福祉学科

保健福祉計画コース

岩田 美香, 志渡 晃一, 志水 幸, 長谷川 聰

保健福祉臨床コース

阿部 哲美, 大友 芳恵, 近藤 里美, 鈴木 幸雄
花澤 佳代, 横井 寿之

精神保健福祉コース

椎谷 淳二, 中川 賀嗣, 向谷地生良, 谷中 輝雄
横山登志子

介護福祉コース

石川 秀也, 志水 朱, 高橋 由紀, 丹野 和子
森 一美

(1) 著 書

- 1) 近藤里美: ターミナルケアにおける音楽療法, 飯森眞喜雄, 阪上正巳編「芸術療法実践講座4. 音楽療法」p.146-163, 岩崎学術出版社, 2004.
- 2) 近藤里美: 言葉を超え, 音楽を感じるとき, 緩和ケア編集委員会「緩和ケア增大特集:スピリチュアルペイン」15, 秋, p.475-478, 青海社, 2005
- 3) 志渡晃一: 第4章「環境保健」-第8節「衣食住の衛生」, 鈴木庄亮・久道茂 編, シンプル衛生公衆

- 衛生学2005, 南江堂, 151–158, 2005.
- 4) 志水 幸: 社会福祉の理念と概念. 足立叢編著: 新・社会福祉原論. みらい, 19–37, 2005年3月
 - 5) 花澤佳代: 精神保健福祉行政. 改訂精神保健入門(共著). 八千代出版. 2005年4月
 - 6) 向谷地生良(共著): シリーズケアを開く「べてるの家の当事者研究」. 医学書院. 2005. 2
 - 7) 向谷地生良(共著): 「地域福祉計画の理論と実践—先進地域に学ぶ住民参加とパートナーシップ—. MINERVA 福祉ライブラリー」ミネルヴァ書房. 2005. 4
 - 8) 向谷地生良(共著): 医療職のための「包括的暴力防止プログラム」. 医学書院: 2005. 6
 - 9) 横山登志子: ひとや家族を理解する—生態学的な視点に基づく家族支援の理論と方法—. 家族支援論—一人ひとりと家族のために. 得津慎子編著. 相川書房pp87–109. 2005年3月

(2) 論 文

- 1) 鳥山まどか・岩田美香: 母子寡婦福祉資金(修学資金)貸付制度の現状と課題に関する調査報告. 教育福祉研究. 第11号, 43–65P, 2005年3月.
- 2) 大友芳恵: 一人暮らし高齢者の生活の現状と地域に内在する課題. 生活保護受給高齢者へのインタビュー調査から. 北海道社会福祉研究第25号. 2004. 12
- 3) 志水 幸, 亀山育海, 村山くみ, 小関久恵: 島嶼地域高齢者の健康診断・歯科診療受診状況の特性に関する研究. 北海道社会福祉研究第25号. 29–39. 2004年12月.
- 4) 中川賀嗣, 大槻美佳, 井之川真紀: 使用失行の発現機序について. 神経心理学. 20: 241–253, 2004. (日本神経心理学会第1回優秀論文賞受賞. 2005年9月22日)
- 5) 中川賀嗣: 失行. 精神科臨床評価・検査法マニュアル. 臨床精神医学. 増刊号: 429–438. 2004
- 6) 花澤佳代: 精神障害者に対する自己決定援助の関する研究—自己決定援助の課題—. 北海道社会福祉研究. 北海道社会福祉学会発行. 第25号 pp. 31–37. 2004年12月
- 7) 花澤佳代: 新人ソーシャルワーカーの知識と現状—専門知識をいかにして、実践で活かすか—. 精神保健福祉NO. 62. 日本精神保健福祉士協会発行. 2005年6月
- 8) 谷中輝雄: やどかりの里における精神保健福祉活動の課題. 最新精神医療10巻5号, 1–4 2005. 9
- 9) 向谷地生良: 「非援助の援助」の視点から考える統合失調症をかかえる当事者のセルフヘルプ・グルー

プの可能性. 精神科臨床サービスの質を高めるために「してはいけないこと」. 臨床技法別「してはいけないこと」. 精神科臨床サービス. 5: 379–383. 2005

- 10) 今村弥生, 川村敏明, 向谷地生良, 山根耕平, 小澤寛樹: 当事者参加の精神科講義の意義. 医学教育. 36 (Suppl): 85. 2005
- 11) 向谷地生良: 自分の専門家になる. 当事者研究の試みから見えてくるもの. (0285–9262) 28: 82. 2005
- 12) 向谷地生良: 暴力に対して援助者はどこに立つべきか—『医療職のための包括的暴力防止プログラム』の発行に際して. 精神看護. 8: 60–67. 2005
- 13) 向谷地生良: グループワークと集団精神療法. セルフヘルプ・グループの意義と専門家の役割. 「無力」と「弱さの力」の視点から. 精神療法. 31: 438–444. 2005
- 14) 向谷地生良: 当事者の力とインクルージョン. 浦河べてるの家の取り組みから. ソーシャルワーク研究. 30: 254–261. 2005
- 15) 向谷地生良: 統合失調症の精神療法. 生活の中での統合失調症の精神療法. 当事者の暮らしのツールとしてのSST—生活技能訓練. 精神療法. 31: 55–61. 2005
- 16) 向谷地生良: 私のまちづくり. べてるの繁栄は、地域の繁栄. 安心して“病気”でいられるまちづくりをめざして. 保健師ジャーナル. 61: 134–138, 2005
- 17) 横山登志子: 「精神保健福祉領域の『現場』で生成するソーシャルワーカーの援助観—ソーシャルワーカーの自己規定に着目して—」. 社会福祉学 第45巻2号, 24–34. 2004年11月
- 18) 横山登志子: ソーシャルワークにおける『ナラティヴ・アプローチ』をめぐる議論について. 北海道医療大学看護福祉学部紀要 第11号, 19–25. 2004年12月

(3) その他の論文

- 1) 阿部哲美ほか: どうなる早期療育システム 共 04, 11 北海道乳幼児療育研究 第17号, 148–149.
- 2) 阿部哲美ほか: 集中できない子と捉えていたD君との関わりを通じて 共 04, 11 北海道乳幼児療育 第17号, 81–86.
- 3) 石川秀也ほか: 特養入所者の経年変化に関する調査研究報告書, 全国老人福祉施設協議会・老施協総研; 1–126 (共同研究につき本人担当部分抽出不可能), 2005.
- 4) 石川秀也ほか: 特別養護老人ホームにおける権利擁

- 護システムに関する調査報告書，全国老人福祉施設協議会・老施協総研；81-95，2005.
- 5) 鳥山まどか，岩田美香：母子寡婦福祉資金（修学資金）貸付制度の現状と課題に関する調査報告書. 北海道大学大学院教育学研究科・教育福祉分野，2005年
 - 6) 松島可苗，菅原峰子，照井レナ，佐藤亜弓，後藤ゆり，松浦智和，志渡晃一：北海道における女性看護職員を対象とした生涯の勤務継続意志に関する研究，北海道医療大学看護福祉学部紀要. 11：37-41，2004.
 - 7) 志渡晃一，森田勲，竹内夕紀子，佐藤陽香，山田耕平：本学学生における体型意識の性差に関する研究，北海道医療大学看護福祉学部紀要. 11：79-85，2004.
 - 8) 志渡晃一，藤村麻衣，長手誠嗣，徳橋圭佑：本学女子学生における月経前症候群とライフスタイルに関する研究（第3報），北海道医療大学看護福祉学部紀要. 11：101-105，2004.
 - 9) 志水 幸，志渡晃一，村田明子，日下小百合，小関久恵，古川獎，亀山育海，杉山柳吉，倉橋昌司，樋口孝城，貞方一也，岩本隆茂：本学新入生におけるライフスタイルと健康感に関する研究. 北海道医療大学看護福祉学部紀要. 11：37-41，71，2004. 志水幸，亀山育海：離島高齢者の社会とのかかわりの状況に関する研究. 北海道医療大学看護福祉学部紀要第11号，53-58，2004年12月.
 - 10) 富田正義，若林朋子，山本さおり，伊藤麻未，佐藤紀子，中村恵，今井佐千子，吉澤浩一，志水幸：精神障害者の社会復帰における住居機能に関する基礎的研究－札幌市内における精神障害者居住施設および利用者の実態と課題. 大同生命厚生事業団，2004年10月.
 - 11) 志水 幸，鈴田泰子，千葉伸彦，村山くみ：高齢者の生きがい活動－カレッジリンク型高齢者施設の利用者と学生の交流活動を通して. 学術フロンティア推進事業（五感を介する刺激測定に基づく健康向上のための人間環境システムの構築）参加型社会システム研究班：新たな健康福祉サービスおよびそのシステム化の社会的・制度的諸条件に関する研究－平成16年度研究実績報告書. 51-55. 東北福祉大学感性福祉研究所，2005年3月.
 - 12) 中川賀嗣：高次脳機能の個別の評価. 平成16年度文部科学省学術フロンティア推進事業 研究成果報告書. pp34-35. 2005
 - 13) 松本珠美，花澤佳代，木下英奈：実践と知識をどのように結びつけることができるか. 精神保健福祉 NO.59. 日本精神保健福祉士協会発行 p.270
 - 14) 谷中輝雄：心を病む人たちの福祉. 日本放送出版協会. 社会福祉セミナー，74-77 2005. 7月
 - 15) 谷中輝雄・広田 伊蘇夫 対談 障害者自立支援法体制. 批評社 精神医療 8-24 2005. 7月
 - 16) 横山登志子，三浦一郎ほか：「精神保健福祉援助実習」の受入れに関するアンケート調査. 日本精神保健福祉士協会北海道支部 P.S.W. 支部ジャーナル 第39号，1-10，2005年3月
- (4) 学会発表
- 1) 石川秀也：福祉サービス利用契約のあり方に関する一提言－特別養護老人ホームにおける権利擁護システムに関する調査結果より一，北海道医療大学看護福祉学部学会第2回学術大会，2005. 9. 3
 - 2) 岩田美香：学校から見たネグレクト. 第11回 日本子ども虐待防止学会，2005年9月
 - 3) 大友芳恵：高齢者福祉施設の苦情解決システムの現状に関する研究 日本社会福祉学会第52回大会 2004. 10月
 - 4) 大友芳恵：一人暮し高齢者の生活の現状. A町でのインタビュー調査を通して. 日本介護福祉教育学会 2005. 8月
 - 5) 近藤里美：音楽療法の可能性. 第2回日本神経疾患医療福祉従事者学会講演，2005年2月東京
 - 6) Kondo S : Mindful Inquiry : How do I understand the special moments in ICU ? . 11th World Congress of Music Therapy, Brisbane, 2005年7月. Australia
 - 7) 志水 幸，村山くみ：離島高齢者の社会とのかかわりの状況に関する研究－山形県酒田市飛島における実態調査結果を中心に. 日本社会福祉学会第52回全国大会，2004年10月
 - 8) 村山くみ，志水 幸：離島高齢者の介護予防に関する研究－新潟県岩船郡粟島浦村における実態調査結果を中心に. 日本社会福祉学会第52回全国大会，2004年10月
 - 9) 村山くみ，志水 幸，亀山育海：主観的健康感の規定要因に関する研究. 日本感性福祉学会第4回学術大会，2004年11月
 - 10) 富田正義，吉澤浩一，若林朋子，伊藤麻未，今井佐千子，佐藤紀子，中村恵，志水幸：地域生活支援における居住施設の役割に関する研究（その1）－札幌市内の居住施設の概要および利用者の状況を中心に. 第4回日本精神保健福祉学会，2005年6月.
 - 11) 吉澤浩一，若林朋子，伊藤麻未，今井佐千子，佐藤紀子，中村恵，富田正義，志水幸：地域生活支援における居住施設の役割に関する研究（その2）－札

- 幌市内の居住施設の整備状況を中心に、第4回日本精神保健福祉学会、2005年6月。
- 12) 若林朋子、伊藤麻未、今井佐千子、佐藤紀子、中村恵、富田正義、吉澤浩一、志水幸：地域生活支援における居住施設の役割に関する研究（その3）－札幌市内の居住施設の職員の状況および支援内容を中心に。第4回日本精神保健福祉学会、2005年6月。
 - 13) 小関久恵、志水幸、志渡晃一：島嶼地域住民の健康寿命保持に関する研究－主観的健康感の関連要因を中心に。北海道医療大学看護福祉学部学会第2回学術大会、2005年9月。
 - 14) 亀山育海、志水幸、椎谷淳二、志渡晃一：北海道市町村における老人医療費と介護給付費に関する研究。北海道医療大学看護福祉学部学会第2回学術大会、2005年9月。
 - 15) 山下匡将、竹内夕紀子、宮本雅央、亀山育海、小関久恵、志水幸、志渡晃一：ライフスタイルと健康に関する研究－大学新入生の健康生活習慣を中心に。北海道医療大学看護福祉学部学会第2回学術大会、2005年9月。
 - 16) 宮本雅央、竹内夕紀子、山下匡将、亀山育海、小関久恵、志水幸、志渡晃一：対人関係と健康に関する研究－大学新入生の基本的性格行動を中心に。北海道医療大学看護福祉学部学会第2回学術大会、2005年9月。
 - 17) 大槻美佳、相馬芳明、中川賀嗣、飯塚統、古川博子、成富博章、田代邦雄：Anarthriaの症候と病巣。第28回日本高次脳機能障害学会総会。Nov. 26, 2004 浦安
 - 18) 大槻美佳、相馬芳明、中川賀嗣、田代邦雄：脳梁性吃音の症候と病巣。第46回日本神経学会総会。May. 25, 2005. 5. 鹿児島
 - 19) 中川賀嗣、大槻美佳、中山若樹、斎藤久寿：右無名(129)質・分界条領域の限局性出血による記憶障害の一例。第29回日本神経心理学会総会。22, Sep, 2005, 京都
 - 20) 大槻美佳、中川賀嗣、相馬芳明、成富博章、澤田徹：錯語の神経基盤：病巣研究とfMRI。第29回日本神経心理学会総会。22, Sep, 2005, 京都
 - 21) 中川賀嗣：術前・術中におけるeloquent areaの同定。第5回北海道機能神経外科研究会。20, Nov. 2004, 札幌
 - 22) 中川賀嗣：高次脳機能の個別の評価－覚醒下手術での言語評価について。学術フロンティア中間報告会。2005. 8. 26, 当別
 - 23) 花澤佳代：実践と知識をどのように結びつけることができるか－大学時代のソーシャルワーカーイメージと現実（実践）ギャップをどのように受け止め、自分自身を実践家として育てられるか－。日本精神保健福祉士協会第40回大会・第3回精神保健福祉学会。2004年6月
 - 24) 花澤佳代：新人ソーシャルワーカーの価値と“とまどい”－精神保健福祉領域の新人ソーシャルワーカーはどのような価値を持つべきか－。日本社会福祉学会。第52回全国大会。2004年10月
 - 25) 横山登志子：統合失調症者の「障害受容」に関する考察－「障害受容」論の検討－。第52回日本社会福祉学会。2004年10月
 - 26) 橋本直子、横山登志子：統合失調症者の「病い」の認識変化プロセスに関する質的研究－修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチによる－。第52回日本社会福祉学会2004年10月
- (5) 講演
- 1) 石川秀也：身体拘束ゼロへの取組み、平成16年度岩手県身体拘束廃止研修会、2004. 10. 15.
 - 2) 石川秀也：尊厳を支えるケアを考える、第61回全国老人福祉施設大会、2004. 10. 20
 - 3) 石川秀也：高齢者のこころとからだ、北海道医療大学<生涯学習事業>地域連携セミナー、2004. 10. 21.
 - 4) 石川秀也：高齢者虐待の現状と看護職の役割、北海道看護協会第4支部講演会、2004. 10. 30.
 - 5) 石川秀也：包括的な権利擁護システムの構築に向けて、平成16年度成年後見・権利擁護セミナー、2005. 1. 13.
 - 6) 石川秀也：身体拘束廃止推進委員会の機能と役割、北海道身体拘束廃止推進委員研修会、2005. 1. 24.
 - 7) 石川秀也：高齢者福祉施設における権利擁護システムを考える、平成16年度老人福祉施設長研究セミナー、2005. 2. 3.
 - 8) 石川秀也：利用者の権利擁護と社会福祉士の役割、北海道社会福祉士会日胆支部研修会、2005. 3. 12.
 - 9) 石川秀也：介護サービスの外部評価と情報の公開、千歳市地域ケア会議、2005. 3. 17.
 - 10) 石川秀也：かしこい高齢者福祉サービスの使い方、札幌丘珠高等学校・北海道医療大学高大連携事業地域公開講座、2005. 5. 21.
 - 11) 石川秀也：社会福祉利用者の権利擁護I－成年後見制度の概要、北海道医療大学<生涯学習事業>学園都市線セミナーII、2005. 8. 2.
 - 12) 石川秀也：社会福祉利用者の権利擁護II－地域福祉権利擁護事業の概要、北海道医療大学<生涯学習事業>学園都市線セミナーII、2005. 8. 9.

- 13) 岩田美香：現代の子育てと母親. 札幌市民生委員児童委員全体研修会フォーラム, 2005年2月
- 14) 岩田美香：育児不安・養育困難のある母親への援助について. 北海道胆振保健福祉部, 平成16年度虐待予防ケアマネジメント研修, 2005年2月
- 15) 岩田美香：母子寡婦福祉資金（修学資金）貸付制度の現状と課題. 全国母子自立支援員研修大会, 2005年9月
- 16) 大友芳恵：家族への相談援助. 2004年度第3回痴呆介護実務者研修専門課程 北海道保健福祉部. 2004. 12
- 17) 大友芳恵：栄養指導にいかすカウンセリング技法. 2004年度北海道栄養士会秋季研修会 北海道栄養士会病院部会. 2004. 10
- 18) 大友芳恵：介護保健とサービス提供のあり方. 2004年度和歌山県老人保健施設協会在宅部会秋季研修会 2004. 10
- 19) 大友芳恵：援助技術の向上を目指す. 平成16年度ケアマネジメントリーダー活動研修会 北海道ケアマネジャー連絡協議会 2005. 1
- 20) 大友芳恵：アセスメントの視点－ストレングス視点に立脚したケアマネジメント実践に向けて－札幌市基幹型在宅介護支援センター 平成16年度第3回南北区ケアプラン指導研修会
- 21) 大友芳恵：高齢者虐待問題を考える. 札幌市ボランティアセンター1日福祉セミナー札幌市社会福祉協議会 2005. 6
- 22) 近藤里美：音楽の療法としての可能性. 日本ホスピス緩和ケア協会第2回北海道支部大会. 札幌. 2005年5月
- 23) 近藤里美：音楽療法～音楽の療法的な可能性～. 日本病院ボランティア協会北海道研修会. 札幌. 2005年6月
- 24) 近藤里美：心豊かでたくましく生きる力を育むために：音楽療法でリラクゼーション. 旭川市小中学校教育研究会学校保健部会. 旭川市2005年10月
- 25) 志水 幸：社会福祉主事資格認定講習会（社会福祉行政論）. 北海道社会福祉協議会, 2005年6月
- 26) 丹野和子：老化と家庭内事故. 千歳市教育委員会・千歳市若返り学園・千歳高星大学 2004. 10. 21
- 27) 丹野和子：明るく介護をしよう～やさしい介護の方法～. 札幌丘珠高校・北海道医療大学高大連携事業地域公開講座 2005. 6. 18
- 28) 丹野和子：介護概論・心理面への援助方法. 札幌市ボランティア研修センター・在宅レベルアップ研修会 2005. 8. 2
- 29) 中川賀嗣：健康に生きるために食生活と医療. 脳と心の健康を考える. 2, June, 2005, 札幌
- 30) 谷中輝雄：精神保健福祉士新人研修 精神保健福祉協会 2005. 1. 28～29. 沖縄
- 31) 谷中輝雄：地域生活支援, 鋸路市精神保健福祉士等, 鋸路社会復帰生活支援センター 2005. 3. 11
- 32) 谷中輝雄：障害者ケアマネジメントと生活支援, 鋸路圏域自立促進支援協議会 2005. 3. 12
- 33) 谷中輝雄：精神障害者を地域で支えるために 奄美大島生活支援センター 2005. 3. 20
- 34) 谷中輝雄：地域で暮らしていくために 新潟福祉専門学校 2005. 6. 25
- 35) 谷中輝雄：地域生活支援活動 帯広生活支援センター 2005. 7. 16
- 36) 谷中輝雄：障害者自立支援法と地域における精神障害者を取り巻く環境精神保健実務者研修 東京都社会福祉協議会 2005. 8. 22
- 37) 谷中輝雄：地域で生活するための支援～障がい者と共につくるまちNPO法人 福島 伊達精神障害福祉会 2005. 8. 28
- 38) 谷中輝雄：精神障がい者の地域生活支援について. 札幌市心の健康まつり実行委員会 2005. 9. 10
- 39) 向谷地生良：第五十二回精神保健福祉全国大会長崎大会（厚生労働省など主催）. シンポジウム. 2004. 10. 21
- 40) 向谷地生良：東京大学主催21世紀COEプログラム「死生学の構築」公開シンポジウム. 2004. 11. 5
- 41) 向谷地生良：第19回人権啓発研究集会『精神障害者の社会貢献と共生のまちづくり』－自分の専門家になる当事者研究の取り組みを通じて－神奈川県民ホール. 2005. 2. 18
- 42) 向谷地生良：当事者研究のすすめ. 心理教育・家族教室ネットワーク第8回研究集会. 2005. 3. 3
- 43) 向谷地生良：「精神障害を生きる」～「べてるの家」の降りていく人生～. 津田塾大学主催講演会. 2005. 3. 5
- 44) 向谷地生良：いま、スローな援助を考える①－「べてるの家」を招いて「交換モデル」による「非援助的な援助」のあり方を問う. 立命館大学主催「人間科学研究所学術フロンティア推進事業公開企画シリーズ」. 2005. 3. 6
- 45) 向谷地生良：べてるの家の当事者研究. 第31回日本看護研究学会学術集会札幌大会特別講演. 2005. 7. 22
- 46) 向谷地生良：「非」援助という援助～べてるの家の実践から～. 第16回日本嗜癖行動学会仙台大会. 2005. 10. 21

(6) 社会活動

- 1) 丹野和子：毎日の健康チェック、北海道医療大学<生涯学習事業>学園都市線セミナー、家庭介護講座 2004. 10. 19
- 2) 丹野和子：くすりは正しく飲みましょう、北海道医療大学<生涯学習事業>学園都市線セミナー、家庭介護講座 2004. 10. 26
- 3) 丹野和子：自助具を使って食べてみましょう、北海道医療大学<生涯学習事業>学園都市線セミナー、家庭介護講座 2004. 11. 09
- 4) 丹野和子：実習指導方法、日本介護福祉士養成施設協会北海道支部・平成16年度介護教員養成研修会 2005. 01. 13-14
- 5) 丹野和子：介護を行うに当たって、JA北海道中央会JA石狩・中南空知管内ホームヘルパーフォローアップ研修会 2005. 03. 07
- 6) 丹野和子：介護概論、札幌市北区社会福祉協議会・訪問介護員養成3級課程講座 2005.07.02
- 7) 中川賀嗣：第7回オープンカレッジin北海道医療大学：11, Nov. 2004, 札幌
- 8) 横山登志子：「(201) クロスアディクション、介入、共依存、セルフヘルプ…って？」空知のPSWのための基礎講座、岩見沢市.2005年9月

看護学科

生命基礎科学講座

教授：倉橋 昌司, 佐々木重幸, 細川眞澄男
西 基

(1) 著書

- 1) 西 基, 豊澤隆弘：保健師国家試験のためのスキルアップブック、東京、海馬書房, 2004.
- 2) 高橋茂樹, 豊澤隆弘, 西 基：STEP公衆衛生 第7版、東京、海馬書房, 2004.
- 3) 西 基：医療事故の予見的対策 第5章、失敗様式の優先順位をつける、久繁哲徳・車谷典男監訳：じほう 2004.

(2) 論文

- 1) 倉橋昌司：チューインガム咀嚼時の咀嚼能力に及ぼす唾液分泌速度の影響、日本唾液腺学会誌, 45, 56-58, 2004.
- 2) Inomata Koshiro, Ishii Hisayoshi, Oota Isao and Kura-

hashi Masashi : The electrical change on the papilla parotidea by tongue stimulation and by injection of collected saliva, Higashi Nippon Dental Journal, 23, 189-195, 2004.

- 3) Tatsuya Abe, Masao Hosokawa, Takaya Kusumi, Masanobu Kusan, Kaku Hokari, Hidetoshi Kagaya, Akihito Watanabe, Masahiro Fujita, Shigeyuki Sasaki : Adenocarcinoma arising from ectopic gastric mucosa in the cervical esophagus, A case report and literature review, American Journal of Clinical Oncology, 27(6), 644-5, 2004.
- 4) Yoshiro Matsui, Yasuhisa Fukada, Shigeyuki Sasaki : A new device for ensuring the correct length of artificial chordae in mitral valvuloplasty, Annals of Thoracic Surgery, 79, 1064-65, 2005.
- 5) Yoshiro Matsui, Yukio Suto, Shinichiro Shimura, Yasuhisa Fukada, Yuji Naito, Keishu Yasuda, Shigeyuki Sasaki : Impact of papillary muscles approximation on the adequacy of mitral coaptation in functional mitral regurgitation due to dilated cardiomyopathy Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery, 11(3), 164-171, 2005.
- 6) 細川眞澄男：腫瘍免疫の歴史と現状、Urology View, 3(3), 29-34, 2005.
- 7) Nishi M, Hatae Y : Epidemiology of malignant neoplasms in soft tissue during childhood, J Exp Clin Cancer Res, 23, 437-440, 2004.
- 8) 西 基, 花井潤師, 藤田晃三, 一宮久恵, 田中稔泰, 畑江芳郎, 武田武夫：マス・スクリーニング中止後の神経芽腫死亡率の推定, 日マススク誌, 14, 15-21, 2004.
- 9) 花井潤師, 藤田晃三, 田中稔泰, 一宮久恵, 西 基, 畑江芳郎, 内藤春彦, 飯塚 進, 武田武夫：札幌市における生後1歳2か月の神経芽腫スクリーニングの有効性, 小児がん, 41, 828-833, 2004.
- 10) 西 基, 武田武夫：マススクリーニングが神経芽腫の治療成績に与えたインパクト, 小児外科, 36, 63-69, 2004.
- 11) Nishi M : Epidemiology of childhood malignancies in Japan, Recent Res Devel Cancer 81-88, 2004, 6.
- 12) 西 基：札幌市営地下鉄における投射事故の疫学, 厚生の指標, 52, 8-11, 2005.
- 13) 西 基, 菅原裕美, 萩野弘子, 裏岩由美子, 河野節子, 丹藤由樹子, 早川正映, 島かおる, 田中道廣, 大野琴子：Body Mass Index (BMI) と生活リズム, 日臨栄誌, 26, 301-305, 2005.
- 14) 池田 舞, 池谷 圭, 佐藤瑞恵, 西 基：大学生に

おける感染症罹患と予防接種、北海道医療大学看護福祉学部学会雑誌、1, 25–28, 2005.

(3) その他論文

- 1) 志水 幸, 志度晃一, 村田明子, 日下小百合, 龜山育海, 小関久恵, 古川 優, 杉山柳吉, 倉橋昌司, 樋口考城, 貞方一也, 岩本隆茂: 本学新入生におけるライフスタイルと健康感に関する研究(第4報) 北海道医療大学看護福祉学部紀要, 第11号, 67–71, 2004.
 - 2) 西 基: 我が国における神経芽腫死亡率の推移, 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業, マスクリーニングの効率的実施及び開発に関する研究, 平成15年度 総括・分担研究報告書, 115–121, 2004.
 - 3) 林 邦彦, 藤田利治, 片野田耕太, 祖父江友孝, 佐藤俊哉, 西 基, 山本圭子: 全国乳児コホートを対象とした神経芽細胞腫死亡における受検・未受検の比較研究, 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 マスクリーニングの効率的実施及び開発に関する研究, 平成15年度 総括・分担研究報告書 122–130, 2004.
 - 4) 藤田利治, 林 邦彦, 片野田耕太, 祖父江友孝, 佐藤俊哉, 西 基, 山本圭子: 神経芽細胞腫スクリーニング評価のための妥当性研究としてのケース・コントロール研究研究経過, 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業, マスクリーニングの効率的実施及び開発に関する研究, 平成15年度 総括・分担研究報告書, 131–136, 2004.
 - 5) 片野田耕太, 祖父江友孝, 山本圭子, 西 基, 藤田利治, 佐藤俊哉, 林 邦彦: 神経芽細胞腫スクリーニング受検確認の妥当性研究, 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 マスクリーニングの効率的実施及び開発に関する研究, 平成15年度 総括・分担研究報告書, 137–142, 2004.
- 第63回日本癌学会学術総会, 福岡, 2004, 9. 29–10. 1.
- 3) 岡田 太, 河口徳一, 北川知行, 赤池孝章, 村上明, 大東 肇, 細川眞澄男: 炎症を背景とした実験大腸発癌のAURAPTENE投与による化学予防, 第12回日本がん予防研究会, 岐阜, 2005, 7. 14–15.
 - 4) Okada F, Nakai K, Kobayashi T, Shibata T, Suzuki K, Taniguchi N, Kobayashi M and Hosokawa M: Inflammation-accelerated proneness of benign tumor to acquire malignant phenotypes is inversely related with intracellular antioxidative enzyme levels, The 25 th international symposium of the Sapporo Cancer Seminar Foundation in Yamagata, "Toward personalized medicine on cancer and other lifestyle-related diseases" Yamagata, 2005, 8. 2–4.
 - 5) 岡田 太, 河口徳一, 田澤 大, 小林正伸, 北川知行, 細川眞澄男: 炎症による大腸腺腫プログレッションに伴う蛋白質fascinの変化とその機能解析, 第64回日本癌学会学術総会, 札幌, 2005, 9. 14–16.
 - 6) 西 基, 飯塚 進, 花井潤師, 藤田晃三, 一宮久恵, 田中稔泰: 北海道における出生コホート別に見た神経芽腫死亡率の推移, 第32回日本マス・スクリーニング学会 仙台市, 2004, 10. 8.
 - 7) 西 基, 飯塚 進, 内藤春彦, 花井潤師, 藤田晃三, 一宮久恵, 田中稔泰: 神経芽腫マス・スクリーニング中止後の死亡率の変化予測, 第20回日本小児がん学会, 京都市, 2004, 11. 22.

(5) 講 演

- 1) 第9回臨床BRM研究会 特別講演 抗癌剤による宿主免疫増強効果 京都, 2004, 10. 27
- 2) 第16回岐阜頭頸部腫瘍懇話会 特別講演 炎症によるがんの悪性化進展. 岐阜, 2005, 2. 4.

地域保健看護学講座

(老年看護学)

助教授: 井出 訓, 山田 律子
助手: 萩野 悅子, 内ヶ島伸也, 村井 裕子

(地域看護学)

助教授: 工藤 穎子, 三国 久美
講師: 桑原 ゆみ
助手: 森田 智子

(精神看護学)

(4) 学会発表

- 1) Sun B, Hosokawa M and Kosuna K. : Effects and mechanisms of Active Hexose Correlated Compound (AHCC) and Genistein Combined Polysaccharide (GCP) in tumors, 6th Joint Conference of the American Association for Cancer Research and Japanese Cancer Association, Waikoloa, Hawaii, U S A, 2004, 1. 25–29.
- 2) 塩野谷博, 岡田 太, 小林正伸, 伊地知哲生, 松原範宣, 細川眞澄男: 良性マウス線維肉腫細胞の炎症を介した悪性化進展の経口SOD剤投与による抑制,

教 授：阿保 順子
助教授：佐久間えりか
講 師： 笹木 弘美
助 手：内田 直子，鈴木麻紀子

(1) 著 書

- 1) 井出 訓：第1部第2章 加齢に伴う変化，第3章 加齢過程に対する社会的影響，第2部第8章 老年者的主要徴候に焦点をあてたアセスメントとケアの技法A 心理・精神的徴候，中島紀恵子編：系統看護学講座専門20 老年看護学 第6版，医学書院，Pp.31-33, 36-56, 194-201, 2005, 1.
- 2) 井出 訓：身体症状として現れやすい高齢者のうつ，山内豊明編：フィジカルアセスメントのコツと落とし穴Part1，中山書店，Pp.56-58, 2005, 9.
- 3) 井出 訓：足は口以上にものをいいう，物忘れ=認知症のはじまり？，山内豊明編：フィジカルアセスメントのコツと落とし穴Part2，中山書店，Pp. 2-3, 6-7, 2005, 9.
- 4) 山田律子：第1部第2章 加齢に伴う変化，第3部 第10章 B 摂食のアセスメントと環境ケア，中島紀恵子編：系統看護学講座専門20 老年看護学 第6版，医学書院，Pp.18-30, 267-270, 2005, 1.
- 5) 山田律子：高齢者における視聴覚機能のアセスメント，摂食困難のある認知症患者のアセスメント，山内豊明編：フィジカルアセスメントのコツと落とし穴Part2，中山書店，Pp.4-5, 134-136, 2005, 9.
- 6) 萩野悦子：第2部第8章老年者の主要徴候に焦点をあてたアセスメントとケアの技法B身体的徴候，中島紀恵子編：系統看護学講座専門 20 老年看護学 第6版，医学書院，Pp.202-228, 2005, 1.
- 7) 萩野悦子：高齢者の睡眠障害をアセスメントするコツ，高齢者の脱水症状を見抜くコツ，山内豊明編，フィジカルアセスメントのコツと落とし穴Part2，中山書店，Pp.12-15, 2005, 9.

(2) 論 文

- 1) 高橋正実・井出 訓，スピリチュアリティーの意味，老年社会科学，26（3），296-306, 2004, 10.

(3) その他の論文

- 1) 井出 訓・森 伸幸・高橋正実：日本語版Multifactorial Memory Questionnaire (MMQ-J) の作成，及び信頼性と妥当性の検討，北海道医療大学看護福祉学部紀要，第11号，27-35, 2004, 12.
- 2) 内ヶ島伸也：高齢者の自己効力感に関するわが国の看護研究の動向と課題，北海道医療大学看護福祉学

部紀要，第11号，87-94, 2004, 12.

(4) 学会発表

- 1) Ide, S., Mori, M. & Takahashi : Multifactorial Memory Questionnaire-Japanese version (MMQ-J) : Assessing validity and reliability. Gerontological Society of America 57th Annual scientific meeting, 2004, 11.
- 2) Yamada, R., Hagino, E., Nakajima, K., & Kitagawa K : Environment to improve feeding difficulties in the elderly with dementia. 20th Annual International Conference of Alzheimer's Disease International, Kyoto, October, 15-17, 2004, 10.
- 3) 萩野悦子，山田律子，井出 訓：痴呆高齢者における睡眠状態の観察－アクチグラフと行動的睡眠観察との比較－，日本老年看護学会第9回学術集会，茨城，2004, 11.
- 4) 常田いづみ，磯田順子，山田律子，萩野悦子，内ヶ島伸也，井出 訓：認知症高齢者の生活リズムと記憶・認知に対する音楽療法の有効性，第5回日本音楽療法学会学術集会，名古屋，2005, 9.

(5) 講 演

- 1) 山田律子：認知症高齢者看護認定看護師制度発足記念講演会「認知症高齢者看護援助方法論Ⅱ（生活環境づくり）」，東京，2005, 3.

(6) 社会活動

- 1) 井出 訓：平成16年度北海道看護協会訪問看護師研修講師，札幌，2004, 9.
- 2) 井出 訓：平成17年度千歳市高齢者大学「高星大学」講師，千歳，2005, 5.
- 3) 井出 訓：平成17年度室蘭保健所「家庭看護研修会」講師，室蘭，2005, 7.
- 4) 井出 訓：平成17年度札幌市白石区在宅介護支援センター研修会講師，2005, 9.
- 5) 井出 訓：平成17年度札幌市南区在宅介護支援センター研修会講師，2005, 9.
- 6) 井出 訓：シルバーサービス振興会「グループホーム・スキルアップ研修会」講師，2005, 9.
- 7) 山田律子：平成16年度千歳市市民教養セミナー「高齢者ケア」講師，千歳市教育委員会，千歳，2004, 10.
- 8) 山田律子：平成16年度北海道看護協会「高齢者の看護」研修講師，札幌，2004, 12.
- 9) 山田律子：認知症高齢者看護認定看護師シラバス作成委員，日本看護協会，東京，2004, 12-2005, 3.
- 10) 山田律子：平成17年度看護教員養成講習会「研究方法」講師，札幌，2005, 5-6.

- 11) 山田律子：医療法人渓仁会西円山病院（実習施設）看護部研修会「看護研究のすすめ方」講義および研究相談・支援，札幌，2005，6-9.
- 12) 山田律子：平成17年度保健福祉事務所保健師の活動強化に関する研修会「保健師活動における研究の意義と進め方」講師，札幌，2005，7.
- 13) 萩野悦子：北海道社会福祉協議会 平成16年度痴呆性高齢者処遇研修「痴呆の予防と早期発見・早期対応」講師，札幌，2004，10-11.

(地域看護学)

(2) 論 文

- 1) 三国久美：第一子を育てている母親の育児ストレスとコーピング，北海道医療大学看護福祉学研究科博士論文，2005.

(3) その他論文

- 1) 三国久美：乳幼児精神保健・看護への誘い第4回，育児ストレス，小児看護，28(10)，1401-1405, 2005.

(4) 学会発表

- 1) 工藤禎子，三国久美，桑原ゆみ，森田智子，保田玲子：転居高齢者の年齢別にみた生活変化・健康状態・ニーズ，64回日本公衆衛生学会，札幌，2005，9.
- 2) 廣瀬たい子，三国久美，岡光基子，斎藤早香枝，臼井雅美，寺本妙子，草薙美穂，那須野合子：早産・低出生体重児と満期産児における母子相互作用の予備的検討，第49回日本未熟児新生児学会，横浜，2004. 12.
- 3) 寺本妙子，廣瀬たい子，三国久美，田中克枝：母子遊び場面における子の注意喚起に関する母親の行動パターン，日本発達心理学会第16回大会，神戸，2005. 3.
- 4) T.Hirose, T.Teramoto, K.Mikuni, S.Saitoh, I.Takahashi, M.Hiramatsu, M.Yamazaki, M.Sonobe, T.Omori, M.Okamitsu, S.Hashimoto : An Intervention Study Using NCATS for Mothers in Japan, Society for Research in Child Development 2005 Biennial Meeting , Atlanta, 2005. 4.
- 5) 森田智子：退職前1～2年以内の健保組合員の生活習慣と退職に向けての準備状況，第24回日本看護科学学会学術集会，2004. 12.
- 6) 桑原ゆみ：糖尿病者のセルフケア能力の2年間における変化とその関連要因の検討，第3回日本看護技術学会学術集会，東京，2004. 10.

(6) 社会活動

- 1) 桑原ゆみ：平成17年度北海道看護協会「臨床における看護研究の取り組み研修会」助言者，札幌市，2005. 7.
- 2) 桑原ゆみ：平成17年度滝川市立病院看護部「看護研究研修」講師，滝川市，2005. 8-9.

(精神看護学)

(1) 著 書

- 1) 阿保順子，高岡健（編）：メンタルヘルスライブラリ-12「メディアと精神科医—見識ある発言と冷静な受容のためにー」，批評社，2005，6

(2) 論 文

- 1) 阿保順子：看護の中の身体—対他的技術を成立させるもの，Quality Nursing Vol. 10 No. 12, 6-1, 2004.
- 2) 阿保順子：アルツハイマー患者の意識世界 すべてを失って得る他者とのピュアなつながり，中央公論，262-269, 2005, 4.

(3) その他論文

- 1) 阿保順子：援助の視点—認知症高齢者の世界へのかかわり，月刊総合ケア，第15巻第4号，76-79, 2005.
- 2) 笹木弘美：精神科看護における急性状態にある患者の臨床判断と看護援助の構造化，平成16年度科学研究費補助金若手研究（B）実績報告書，2005.
- 3) 鈴木麻記子，阿保順子，八木こずえ，坂井美加子：統合失調症患者の早期退院後における自我強化の過程とかかわり，北海道医療大学看護福祉学部学会誌第1巻1号，47-49, 2005.

(4) 学会発表

- 1) 宮地普子，高橋みつ，那須典政，煤賀隆弘，鈴木麻記子，阿保順子：地域における「こころの健康相談」を試みて—半年間の活動経過と利用者のニーズー，北海道医療大学看護福祉学部学会 第2回学術大会，当別町，2005，9.
- 2) 八木こずえ，坂井美加子，上石陽子，鈴木麻記子，阿保順子：統合失調症患者の早期退院後における自我強化の過程とかかわり（第2報），北海道医療大学看護福祉学部学会 第2回学術大会，当別町，2005，9.

(5) 講 演

- 1) 阿保順子：第19回琵琶湖長寿科学シンポジウム「高齢者の声を聴く—幸せな生活を実現するために私たちができることー」，講演，「看護と福祉の持つ力，痴呆老人の世界への関わり」，滋賀県，2004，11.

- 2) 阿保順子：北海道高齢者問題研究協会 高齢者問題セミナー基調講演「肥大化した自己意識からの解放」, 札幌市, 2005, 8.

(6) 社会活動

- 1) 三浦雅士, 阿保順子：身体の生成・身体の認識・身体のつながり, インタビュー, Quality Nursing Vol. 10 No. 12, 6-12, 2004.
- 2) 阿保順子：展望「社会と人間へのまなざし」, 看護展望 6月号, Vol. 30 No. 7, 1, 2005.
- 3) 阿保順子：第31回日本看護研究学会学術集会, シンポジウム「人権と尊厳を守る看護職の責務—相手を人間として尊重するということ」, シンポジスト, 札幌市, 2005, 7.
- 4) 鈴木麻記子：北海道医療大学看護福祉学部学会 第2回学術大会, シンポジウム「ナラティヴ・アプローチの臨床」, シンポジスト, 当別町, 2005, 9.
- 5) 佐久間えりか：第16回看護学校協議会学会, シンポジウム「看護基礎教育における人権・倫理の育成を考える」, シンポジスト, 札幌, 2005. 7.

of family members “Coming to terms” with having a terminally ill member, The 15th To ComfortAlways Conference—Palliative Care, Minnesota, 2004, 11.

- 3) 平典子：「折り合い」からみた看取りの様相—終末期がん患者の家族に焦点をあてて, 第24回日本看護科学学会, 東京, 2004, 12.
- 4) 川村三希子, 平典子, 高田麻依子：緩和ケアに携わる看護師のサポートシステム構築に向けて—アクションリサーチによる取り組み, 第31回日本看護研究学会, 札幌, 2005.
- 5) 鹿内あづさ：軽度痴呆を有する独居老人の「食行動」に対する認識—食行動の安全との関連ー, 第9回日本在宅ケア学会学術集会, 68-69, 横浜市, 2005.

(5) 講 演

- 1) 花岡真佐子：看護教員養成講習会（北海道保健福祉部主催）, 「看護教育評価」, 札幌, 2004, 9.
- 2) 花岡真佐子：北海道看護教育研究会, 「授業評価の実践報告—食事の援助ー」, 札幌, 2005, 4.

実践基礎看護学講座

教 授：花岡真佐子, 平 典子

講 師：伊藤祐紀子

助 手：明野 伸次, 鹿内あづさ

(2) 論 文

- 1) 伊藤祐紀子：共感に関する研究の動向と課題 国内の看護研究に焦点を当てて, 医学書院, 看護研究, 37 (6), 75-88, 2004, 10月.
- 2) 鹿内あづさ：独居生活を営む軽度痴呆老人の「食行動」—安全を保つ観点からー, 北海道医療大学看護福祉学部紀要第11号, 1-11, 2004.

(3) その他論文

- 1) 明野伸次：男性看護師に対する業務評価・役割期待に関する文献的考察, 北海道医療大学看護福祉学部紀要第11号, 95-100, 2004.

(4) 学会発表

- 1) Noriko Hira, Judith Johnson, Junko Abo : The process of familymembers “Coming to terms” with having a terminally ill member, The 16th MASCC International Symposium, Supportive Care in Cancer, Miami, 2004, 6.
- 2) Noriko Hira, Judith Johnson, Junko Abo : The concept

母子看護学講座

教 授：斎藤いづみ

助教授：宮崎みち子, 山本美佐子

講 師：遠藤紀美恵, 篠木 絵理, 植谷亜希子

助 手：笹木 葉子, 松島 可苗, 萬 美奈子

(1) 著 書

- 1) Eri SHINOKI and Ichiro MATSUDA : Changes of biomedical perspective of Japanese clinical geneticists about repro-genetics during 1995-2001, Taking life and death seriously-bioethics from Japan, Advance in bioethics, Volume 8, 85-112, Elsevier Ltd, (UK) 2005.

(2) 論 文

- 1) 斎藤いづみ：専門看護師（母性）に関する最新動向, 北海道母性衛生学会報, 40, 2004
- 2) 篠木絵理：看護における遺伝サービスのための基礎的研究, 北海道医療大学看護福祉学研究科平成16年度博士論文, 2005.
- 3) 山本美佐子, 松島可苗, 堀込和代, 水嶋禮子：母親役割意識と影響要因—産科退院前と月齢1カ月時の調査を通して, 北海道医療大学看護福祉学部紀要第11号, 43-49, 2004.

- 4) 松島可苗, 菅原峰子, 照井レナ, 佐藤亜弓, 後藤ゆり, 松浦智和, 志渡晃一: 北海道における女性看護職員を対象とした生涯の勤務継続意志に関する研究, 北海道医療大学看護福祉学部紀要第11号, 37-41, 2004.
- 5) 松島可苗: 札幌市近郊における新入大学生の性知識と性行動, 北海道医療大学看護福祉学部学会誌, 1(1), 29-35, 2005.
- (3) その他論文
- 1) 斎藤いずみ: 北海道医療大学個体差健康科学研究所, 研究プロジェクト採択研究成果報告書, 2003-2004, 分娩の安全と看護の質保証に関する基礎研究, 112-113, 2005
- (4) 学会発表
- 1) 斎藤いずみ: 専門看護師(母性)教育における臨地実習, 北海道における初回の臨地実習Ⅰ・Ⅱの過程, 第34北海道母性衛生学会, 札幌, 2004, 11.
 - 2) M. MIYAZAKI: The issues of artificial abortion in Japan - From the standpoint of reproductive health, International Council of Nurses 23rd Quadrennial Congress, 台北市, 2005, 5.
 - 3) 篠木絵理・松田一郎: 出生前診断の適応に関する遺伝専門医の認識・医学的適応と非医学的適応の場合, 日本人類遺伝学会第49回大会, 東京, 2004, 10.
 - 4) Eri SHINOKI: The view of Japanese mothers who have children with genetic diseases-After their children were diagnosed for second time, The 2004 ISONG conference, Toronto (Canada), October, 2004.
 - 5) 篠木絵理・松田一郎: 医学生・心理学生の生命倫理に対する認識—講義受講前後の認識を比較検討して—, 日本人類遺伝学会第50回大会, 倉敷, 2005, 9.
 - 6) 梶谷亜希子, 篠木絵理, 松島可苗, 阿保順子, 横井寿之: 高校生の性と性教育に対する高校教員の意識, 北海道医療大学看護福祉学部学会第2回学術大会, 北海道, 2005, 9.
 - 7) 菅原峰子, 松島可苗, 照井レナ, 志渡晃一: 北海道における女性看護職員を対象とした現職場での勤務継続意志に関する研究(第1報), 第63回日本公衆衛生学会, 島根, 2004, 10.
 - 8) 照井レナ, 松島可苗, 菅原峰子, 志渡晃一: 北海道における女性看護職員を対象とした現職場での勤務継続意志に関する研究(第2報), 第63回日本公衆衛生学会, 島根, 2004, 10.
 - 9) 松島可苗: 青年の望まない妊娠と性感染症の予防行動に影響する要因, 第63回日本公衆衛生学会, 島根, 2004, 10.
 - 根, 2004, 10.
 - 10) 笹木葉子: 乳児期のおしゃぶり使用に関する育児情報の検討, 北海道母性衛生学会, 札幌, 2004, 11
- (5) 講演
- 1) 斎藤いずみ: 北海道経済産業局, データに基づく医師・看護師の効率的配置について発表, 2004, 10.
 - 2) 斎藤いずみ: 京阪奈学園都市ロボテクス研究所 看護時間測定機器開発について発表, 2005, 2.
 - 3) 篠木絵理: 子どもの権利とインフォームドコンセント, 北海道立小児総合保健センター講演会, 小樽, 2004, 11.
 - 4) 篠木絵理: 研究計画書指導, 滝川市立病院看護部研修会講演, 滝川市, 2005, 6.
- (6) 社会活動
- 1) 斎藤いずみ, 梶谷亜希子, 遠藤紀美恵, 笹木葉子: 北海道経済産業局・北海道庁・札幌市・北海道科学技術総合振興センター等主催「患者の皆様を応援します 医療現場を応援します データに基づく医療の安全と質の向上に直接貢献する新しい医療看護システム」発表・学術展示, 第18回北海道・技術・ビジネス交流会(ビジネスエキスポ), 札幌, 2004, 11.
 - 2) 斎藤いずみ: 北海道科学技術振興機構, データに基づく病院内医療スタッフの効率的配置について発表, 2004, 12.
 - 3) 斎藤いずみ: 北海道厚生局, 臨床指導者研修講師, 母性看護, 2005, 6.
 - 4) 斎藤いずみ: 北海道厚生局, 臨床指導者研修講師, 認定看護師, 2005, 6.
 - 5) 斎藤いずみ: 北海道厚生局, 臨床指導者研修講師, 専門看護師, 2005, 6.
 - 6) Izumi Saito: Registered Nurse Association Ontario in Canada "Nursing Best Practice Guidelines Project" "Staffing and Scheduling at hospital in Japan"発表, Toronto, 2005, 9.
 - 7) 篠木絵理・梶谷亜希子: 平成17年度, 滝川市立病院看護部「看護研究研修」講師, 2005, 8.
 - 8) 篠木絵理・梶谷亜希子: 平成17年度, 滝川市立病院看護部「看護研究発表会」座長, 2005, 9.
 - 9) 松島可苗: 人材派遣健康保険組合, ウエルネスセミナー, 保健指導, 札幌市, 2004, 4.
 - 10) 笹木葉子: 平成17年度, 財)家庭保健生活指導センター, 母子保健相談員.
 - 11) 笹木葉子: 平成17年度, 札幌市母子保健訪問指導員.

- 12) 笹木葉子：平成17年度，財）母子衛生研究会，新ママの育児講座，育児相談。
- 13) 笹木葉子：平成17年度，札幌市ワーキングマタニティスクール講師，札幌市。
- 14) 笹木葉子：財）母子衛生研究会，プレママわくわくセミナー講師，札幌市，2005，4.

成人看護学講座

教 授：野川 道子
 講 師：唐津 ふさ，佐々木栄子，館山 光子
 助 手：大西 奈穂，大森 千文，塩谷 玲子
 西村 歌織，涌井 知子

(1) 著 書

- 1) 館山光子（高橋章子編）：緊急事態ナーシングマニュアル－トリアージとファーストエイドー，医歯薬出版株式会社，2004，10.
- 2) 館山光子（石鍋圭子編）：Nursing Mook28疾患・障害別リハビリテーションナーシング，学習研究社，2005，4.

(2) 論 文

- 1) 高橋章子，館山光子，長谷川陽子，齊藤理代：救急看護師の役割と能力に関する研究 その1，日本救急看護学会雑誌，6（2），6-12，2005.

(3) その他論文

- 1) 高橋章子，館山光子，長谷川陽子，齊藤理代：救急看護師に必要な能力の確認とその教育法略の開発，平成14年度～平成16年度科学研究費補助金【基盤研究（C）（2）】研究成果報告書，2005，4.

(4) 学会発表

- 1) 久保田亜弓，野川道子：婦人科がん患者がもつ不確かさの特徴，日本看護研究学会雑誌 28（3），99，2005，7.
- 2) 林裕子，吉田礼維子，海岸美子，唐津ふさ，竹村みどり：看護場面におけるタッチの意味（第1報）－リハビリテーション看護における特徴的なタッチ－，第24回日本看護科学学会，2004，12.
- 3) 唐津ふさ，竹村みどり，林裕子，吉田礼維子，海岸美子：看護場面におけるタッチの意味（第2報）－タッチに関連した看護のエキスパート性，第24回日本看護科学学会，2004，12.
- 4) 唐津ふさ，西村歌織，佐々木栄子，野川道子：変性

性神経疾患者の病気の＜受けとめ＞＜対処＞の尺度作成，第24回日本看護科学学会，2004，12.

- 5) Fusa KARATSU：Living With Amyotrophic Lateral Sclerosis：Coming To Terms With The Diseases, The Sixth International Interdisciplinary Conference Advances in Qualitative Methods, Edmonton, 2005, 2.
 - 6) 館山光子，高橋章子，長谷川陽子，齊藤理代：全国調査の結果からみた救急看護師に求められる役割と能力，第6回日本救急看護学会学術集会，交流セッションⅡ「救急看護師像を求めて」，2004，10.
 - 7) 平尾明美，三浦博美，館山光子，中村恵子：介護老人保健施設に勤務する看護師への応急処置・救命処置研修の効果について，第6回日本救急看護学会学術集会，2004，10.
 - 8) 三浦博美，館山光子，平尾明美，中村恵子：介護老人保健施設に勤務する看護師への応急処置・救命処置研修の検討－実践に活用するパンフレットの作成について－，第6回日本救急看護学会学術集会，2004，10.
 - 9) 大西奈穂：HIV感染予防とコンドーム使用に関する質問紙の開発－ヘルスピリーフモデルによる構成－，第31回日本看護研究学会，札幌，2005，7.
 - 10) 塩谷玲子：血液透析療法を続けながら生活する女性の思い，第31回日本看護研究学会，札幌，2005，7.
- ### (5) 講 演
- 1) 館山光子：「量的研究」－臨床で生かせるアンケートの作り方－，北海道看護協会札幌第4支部 第22回看護研究発表会基調講演，2005，2.
- ### (6) 社会活動
- 1) 野川道子：第31回日本看護研究学会学術集会，特別講演，ミッセルの「不確かさ」の理論，座長 2005，7.
 - 2) 野川道子：栗山赤十字病院，看護師研修，看護研究，講義，2005，8.
 - 3) 野川道子：平成17年度看護教員養成講習会，看護論，講義，2005，9.
 - 4) 唐津ふさ：平成17年度臨床指導者講習会，札幌厚生病院，2005，5.
 - 5) 唐津ふさ，館山光子：平成17年度看護研究研修，手稲済仁会病院，2005，6-10.
 - 6) 唐津ふさ，館山光子：平成17年度臨床指導者講習，手稲済仁会病院，2005，8.
 - 7) 佐々木栄子：パーキンソン病の基礎知識，ナーシングカレッジ，44-51，2005，2.
 - 8) 佐々木栄子：パーキンソン病患者の看護，ナーシン

- グカレッジ, 52-55, 2005, 2.
- 9) 佐々木栄子: ケース・スタディ パーキンソン病患者の看護, ナーシングカレッジ, 56-65, 2005, 2
 - 10) 佐々木栄子: 臨床における看護研究の取り組み研修会 助言者, 北海道看護協会, 2005, 7.
 - 11) 塩谷玲子: 札幌外科記念病院, 看護研究学習会, 講師, 札幌, 2005, 7.
 - 12) 塩谷玲子: 学園都市線セミナーⅢ, 慢性疾患と上手に付き合う方法「慢性病とともに生きる女性の思い～血液透析療法を受ける女性を中心に～」, 札幌, 2005, 9.

臨床看護学講座

助教授: 川村三希子, 塚本 容子

講 師: 高橋 久江

助 手: 青柳 道子

(1) 論 文

- 1) 川村三希子: 長期生存を続けるがんサバイバーが生きる意味を見いだすプロセス, 日本がん看護学会誌, 19 (1), 12-21, 2005.
- 2) Tsukamoto, Y. & Rhew C.: Prevalence and Outcomes of Anemia in Individuals with Human Immunodeficiency Virus: A Systematic Review of the Literature, The American Journal of Medicine, Vol. 116 (7 A), 27s -43s.
- 3) 高橋久江, 永谷智恵, 浅野目幸子, 浦田みどり: 実習における学生の継続的成长, 日本看護学会誌, 14 (2), 69-76, 2005.

(2) その他論文

- 1) 川村三希子, 高田麻依子, 平典子: 緩和ケアに携わる看護師のサポートネットワークの構築に向けて～アクションリサーチによる取り組み～, 平成16年度 笹川医学医療研究助成研究報告書, 2005.
- 2) 前野宏, 田巻知宏, 川村三希子: 札幌ホスピス緩和ケアネットワークの設立に向けて, 平成16年度 笹川医学医療研究助成研究報告書, 2005.
- 3) 川村三希子: 終末期ケアの中の身体, Quality Nursing, 10 (12), 33-38, 2004.

(3) 学会発表

- 1) 川村三希子, 高田麻依子, 平典子: 緩和ケアに携わる看護師のサポートネットワークの構築に向けて～アクションリサーチによる取り組み～, 第31回日本

看護研究学会, 札幌, 2005, 7

- 2) 小島悦子, 菊池美香, 川村三希子: 疼痛のあるがん患者をケアする訪問看護師の判断の特徴, 第19回日本がん看護学会, 仙台, 2005, 2.
- 3) 藤原里鶴, 柳澤尚美, 阿部正美, 川村三希子: 事例を通してスピリチュアルケアを考える, 死の臨床研究会, 筑波, 2004, 11.
- 4) Tsukamoto, Y. : The effect of T-20 for deep salvage patients (Poster Session), 11th Conference on Retroviruses and Opportunistic Infections in San Francisco, February 8-11, 2004

(4) 講 演

- 1) 川村三希子: 帯広看護専門学校 卒業記念講演 「看護師という職業の魅力」 帯広, 2005, 2.
- 2) 川村三希子: 北海道医療大学 看護福祉学部学会 「エンド・オブ・ライフケアの中のナラティブ」 札幌, 2005, 9.
- 3) Tsukamoto, Y. : Lecture for HIV Experts Series : HIV related malignancies, September 28, 2004, Sponsored by Johnson & Johnson
- 4) 塚本容子: HIVの臨床, エイズ予防財団, 2005年2月
- 5) 塚本容子: 看護の専門化を目指して, 日本科学看護研究学会, 北海道部会, 2005年7月
- 6) 塚本容子: 看護の専門化とHIV看護, アクションネットワーク, 広島県福祉保健部保健対策室, 2005年9月

(5) 社会活動

- 1) Tsukamoto, Y. : Preventing the Flu, Brochure for high risk patients. October, 2004
- 2) Tsukamoto, Y. : Risk for your heart ? HIV and heart disease, October, 2004